

(様式 1-2) (用紙寸法は、日本工業規格 A 列 4 とする。)

(※本様式 1-2 については、別紙を添付することも可能とするが、別紙も含め、全体で 6 ページ以内に収めること。また、別紙を添付する場合は、A 4 サイズで作成すること。)

## 事業計画書

### 1. 事業の題名

「 家庭教育支援—— 同世代が分かり合える“子育て・ママ育て”ガイドブックを作ろう!! 」
--

### 2. 業務の委託期間

委託を受けた日から平成 28 年 3 月 31 日まで

### 3. 選択テーマ

※単独テーマに該当する場合には、いずれか一つに○を、複数テーマに該当する場合には、主なテーマに◎、関連するテーマに○を付ける。

テーマ	該当の有無
若者の自立・社会参画支援	
地域の防災拠点形成支援	
地域人材による家庭支援	◎
地域振興支援	○
その他地域の教育的資源を活用した地域課題解決支援	○

### 4. 支援プログラム実施組織の構成

#### ①組織の全体構成員

氏名	所属・役職等	備考欄
	生涯学習課	
	広島大学	
	中央図書館	
	児童青少年センター	
	広島大学付属幼稚園	
	社会福祉協議会	
	三ツ城小学校	
	三ツ城いきいき子どもくらぶ	

②事業推進担当社会教育主事（役職が社会教育主事でない場合は事業の中心となる社会教育関係職員）

氏名	所属・役職等	備考欄
古玉菊江	東広島市教育委員会生涯学習課三ツ城コミュニティハウス 副所長	

## 5. 取組みの趣旨・目的

(地域の現状、解決すべき地域の課題、それに対する解決の取組概要等を記載すること。)

国の「次世代育成支援対策推進法」に基づき、少子化対策を目的としてスタートした子育て支援は、単なる少子化対策でない包括的な子育て支援の施策となり、子育て家庭のみに負担を負わず、社会全体で子育て家庭を支援し、子どもの育ちを支える親（保護者）の支援が本格化している中、平成24年8月「子ども・子育て関連3法」が制定され、平成27年4月から「子ども・子育て支援新制度」が全国的にスタートする。

本市においても「つながる つなげる 育ちありのまちづくり」を基本理念とし、「東広島市子ども・子育て支援事業計画」を現在、策定しており、「つながる つなげる」支え合いの中で、子ども、保護者、支援者がともに「育つ」ことの重要性を提唱している。

このような中、本市においては、子育て支援に係る事務事業が部局を越え多数実施をし、ライフステージに応じた事務事業は存在しているが、乳幼児期から学齢期そして青年期へと切れ目のない家庭教育支援が保護者等へ適切に情報が供給されておらず、断片的な支援に留まっているのが現状である。

一人ひとりの子どもが健やかに成長できるよう、すべての子どもと親へ、妊娠・出産期から切れ目のない支援に配慮し、子育てに対する不安や負担を軽減するための学習会の提供や相談体制の充実などに取り組む必要がある。

また、子育て支援は、保護者が子育てについて第一義的責任をもつという基本認識のもとに、家庭、学校、地域、その他の地域社会のあらゆる分野の人々が、保護者に寄り添い、子育てに対する負担や不安、孤独感を和らげ、親としての成長を促すよう支援することが重要である。地域がその役割を果たし、ともに子どもの成長を喜び、育ちあうことができるよう、子育て支援力の強化を図る取り組みを推進する。

そこで、本市が毎年発刊している「子育てガイドブック」には妊娠・出産から小学校までの親子を対象とした子育てに関する制度や支援をまとめた冊子を作成し、子育てに関する制度説明、学習情報、施設情報、相談支援情報などが網羅され、行政情報として市民へ提供しているが十分な活用がみうけられない。

この「子育てガイドブック」を本誌の家庭教育支援のバイブルとし、また、子ども、保護者、支援者が共に「育つ」潤滑油としての活用を目指すため、「子育てガイドブック」に精通した者が保護者からの相談を受け、それぞれのニーズに合った子育て支援サービスについて情報提供できる専門の相談員を要請する必要がある、また、読者である保護者の目線やニーズに応えるべく「子育てガイドブック」に変容しなければならない。

このような課題を解決するためには、①乳幼児期（0～2歳）、②幼稚園・保育園期（3～5歳）、③小学校期（6歳～12歳）の3期に分け、ニーズに合った「子育てガイドブック」を作ることに取り組んでいく必要がある。

## 6. 支援プログラムの具体的実施内容及び実施方法等

### ①アンケート調査

東広島市にある保育所・子育て地域センター・子育てサロン・リトミック教室等に出かけて（事前打ち合わせをしておく）子育て中の保護者対象のアンケート調査を実施する。これは、市内全体のアンケートを取るには難しいので（拒否されるところも少しあるので）、まずは、入りやすいところに絞って調査することにした。アンケートについては、子育てをしておられる保護者の皆さんが「どんなことで困っているか?」「子育ての為に必要としてい

るものは何か?」「現在特に必要としている課題は?」などを調査して、それぞれ子育て中のお母さん方のニーズに合った「子育てガイドブック」を作るために、すぐに取り組んでいく必要のある課題（日ごろから困っていること、悩んでいること）を知り、今後の取り組みに生かしていく。

## ②学習会

・特にこの度は、同世代のお母さん方で「切実な悩みに」少しでも応えられるような講座にしたいと思い、次のような内容で進めていきたいと思い学習会を行うことにした。

### (1) プログラム名

「東広島市子育てガイドブック養成講座—同世代の悩みに応えて—」

### (2) 内容

・東広島市が毎年発刊している「東広島市子育てガイドブック」を参考にしながら同世代のお母さん方に合った、更にいつでも手に取って使えるようなものに作り替えていく。

・そのためには、「ガイドブック」を作ったことのあるベテラン経験者に来てもらい、『作るために大変だったこと、作ってうれしかったこと』など、話してもらい意見交換をしながら、自分たちでできるものを考える材料を見つけてもらう、きっかけになるようにしたい。

※月1回の会合を持ち、同世代のお母さんがどんなことで、どのように悩んでいるかをまとめていき、1冊の「ガイドブック」に作り上げていくのが目的である。

・学校教育・社会教育の融合施設で、保育所、子育て支援センター・保健センターなど近隣にある立地条件を活かした三ツ城コミュニティハウスにおいて実施。

### (4) 対象者

・三ツ城小学校区内において（あるいは、校区外も含む）、現に子育てボランティア活動を行っている同世代のお母さん方が対象。

### (5) プログラムの実施方法

・東広島市子ども・子育て支援事業計画の概要について

・子育てガイドブックの掲載内容の確認・習得

※掲載内容機関による出前講座の実施

・子育て実施期間との交流

・子育て目標の「子育てガイドブック」の改変について

※同世代のお母さん方がいつでも手に取って読めるガイドブックにしていきたい。

## ③ガイドブックの指導養成会

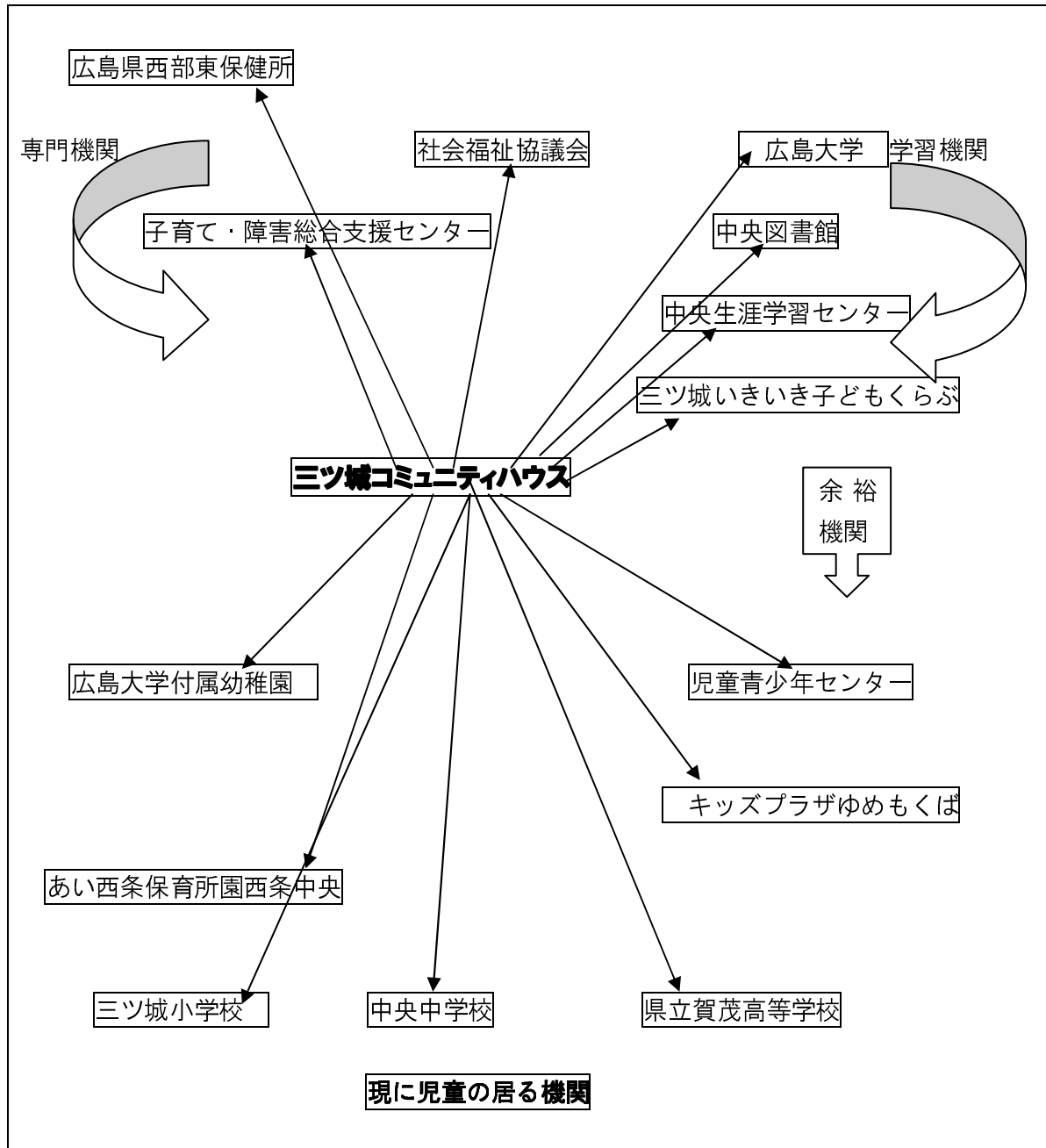
・ガイドブック指導は、編集者の方に来てもらって、まず、『ガイドブック』を作るうえでの【基本となるもの】ものについて詳しく指導してもらう。更に、取材の仕方・文章の書き方・カットの入れ方の工夫等も指導してもらいながらも、それぞれの個性を生かしたガイドブックに作成していくように進める。

## 7. 支援プログラムの実施により得られることが見込まれる成果・効果

・「子育てガイドブック」の掲載内容の充足化により、子育て不安の解消へつながる。  
・相談者が集う三ツ城コミュニティハウスの活用促進及び子育て支援機関へ繋げることにより、地域の安心・安全な子育て環境が整備される。  
・子育て支援機関の連携により、子育て不安を持つ保護者の情報共有により、児童虐待防止になる。

- ・子育て支援機関の利用促進により、同年齢を持つ親同士のネットワークが醸成され、子育ての孤立化が解消される。
- ・同世代のお母さん方が、安心して手に取って見れるものにしていきたい。
- ・ライフステージに応じた切れ目のない学習支援の提供により、子育てスキルの習得が図られる。

8. 事業の実施体制（再委託先まで含めた事業実施体制について図示すること。）



9. 支援プログラム実施スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
アンケート	実施						実施					

講座	実施	実施	実施	実施
学習会	実施	実施	実施	実施
ポラン ティア	養成講座	養成講座	養成講座	養成講座
ガイド ブック	指導講座	指導講座	指導講座	指導講座

#### 10. 支援プログラムの評価にかかる項目

(評価体制、評価手法等を本プログラムの成果指標も含め、できるだけ具体的に記載すること。)

- ① アンケート実施
  - ・年に2回取る。
  - ・1回目は、お母さん方がどんな悩みを持っておられるか。また、「子育てガイドブック」をどんなものにしようと思っておられるか。の調査をする。
  - ・2回目のアンケート実施により、1回目の問題点を80%満足していたら良しとする。(目標達成度)
- ② 講座
  - ・大学の先生を招いて話を聞き、学習後アンケートを取り自己評価をしてもらう。
  - ・2回目の講座の後、自己評価をし、1回目のアンケートと比較し、学習成果のあったところを学習者同士で話し合う。(ここで、人間関係の充実が出来る)
  - ・話し合うことにより、お互いの思っている良い面の共有ができる。(人間関係の充実)
- ③ 学習会
  - ・アンケートを基に自分たち同世代のお母さん方が、いつでも、どこでも気楽に読める「子育てガイドブック」を作るための知恵を出し合う場づくりができる。(最初に設定した目標の達成度)
  - ・みんな日ごろ思っている、感じていることを出し合って徐々に楽しいガイドブックに挑戦。
  - ・お互い意見を出し合いながら活動したり、講座の体験を思い出したりすることによって、仲間づくりの充実度が増してくる。
- ④ ガイドブック養成講座
  - ・ガイドブック指導では、編集者を招いて、『ガイドブック』を作成するに当たっての大切な要点マスターしてもらい、作成後、学習した成果が出たか話し合う。(学習成果)
  - ・この養成が難しい人には、個々にわたり少しずつ話をしていく中で、理解してもらう。するにあたっての大切な要点をマスターしてもらう。(学習成果)

【以下は、複数年度 of 取組み実施を予定している場合に作成すること】

#### 11. 初年度の実施内容、成果を踏まえた次年度以降の支援プログラム実施内容及び実施方法等

## ○2年目

- ・初年度の「ガイドブック」づくりを受け、2年目でボランティア養成
- ・ベテラン経験者（経験豊富な）に来てもらってボランティア養成講座をしてもらう。
- ・活動を増やしていくことにより、仲間づくりを通して絆が深まればよい。
- ・ベテラン経験者の、“作成に至るまでの苦勞・失敗体験談・作成できた後の喜び等の話を聞き、これからの参考にする。
- ・ボランティア養成は、話を聞いた後は、熱心にボランティア活動を行っているところを訪問したりして、意見交換をして、良いところは持ち帰り今後の参考にする。

## ○3年目

- ・3年目で養成したボランティア自主サークルを立ち上げ、別の子育て支援活動を企画・展開する。
- ・自立を目指す。
- ・アンテナを張って、他の地域で行っているところに出かけて、意見交換しながら、参考になることをキャッチして帰り、自分たちでできるものを考える。